

# 令和4年度千葉県学校体育研究大会

1 大会主題 『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた体育学習の推進』

2 期 日 令和4年11月18日（金）

3 会 場

(1) 全体会 船橋アリーナ

(2) 分科会 小学校 船橋市立七林小学校

中学校 船橋市立行田中学校

高等学校 千葉県立船橋啓明高等学校

4 内 容

(1) 講演

演 題 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について」

講 師 帝京大学 教育学部 教育文化学科

教授 高田 彬成 先生

(2) 公開授業

分科会	指 導 者	展 開	単 元 名
小学校	坂井 栞 教諭	1年3組	ゲーム（鬼遊び） 「宝取り鬼」
	横田 達 教諭	3年3組	ゲーム（ゴール型ゲーム） 「ハンドボール」
中学校	柘植 晴登 教諭	3年8・9・10組	球技（ゴール型） 「ハンドボール」
	久米 宏治 教諭	3年8・9・10組	球技（ネット型） 「バレーボール」
高等学校	宮田 寛大 教諭	1年C・D組	球技（ネット型） 「バレーボール」

(3) 研究発表及び研究協議

分科会	研究主題	発表者	司会者	助言者
小学校	一人一人が学習内容を理解し、わかる・できる喜びを味わう体育学習～学びの系統性をとらえ、思い切り運動できる学習を通して～	船橋市立 七林小学校 教諭 横田 達	船橋市立 高郷小学校 教諭 平林 功滋	南房総教育事務所 主席指導主事 片山 博臣
中学校	一人一人が深い学びを具現化し、わかる・できる喜びを味わう体育学習～学びの系統性をとらえ、自己実現できる学習を通して～	船橋市立 行田中学校 教諭 柘植 晴登	船橋市立 船橋中学校 教諭 石川 航平	東葛飾教育事務所 指導主事 出嶋 佑太
高等学校	男女共習選択体育における、ICTを活用した主体的・対話的で深い学びに向けた体育授業	千葉県立 船橋啓明高等学校 教諭 宮田 寛大	千葉県立 八千代西高等学校 教諭 村越 幸二	千葉県立 八千代高等学校 教頭 柳橋 宏昭

(4) 参加者

- 県内小・中・高等学校・特別支援学校等教員
- 県教育庁教育事務所学校体育担当指導主事
- 市町村教育委員会学校体育担当指導者

## 5 講演

演題 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について」

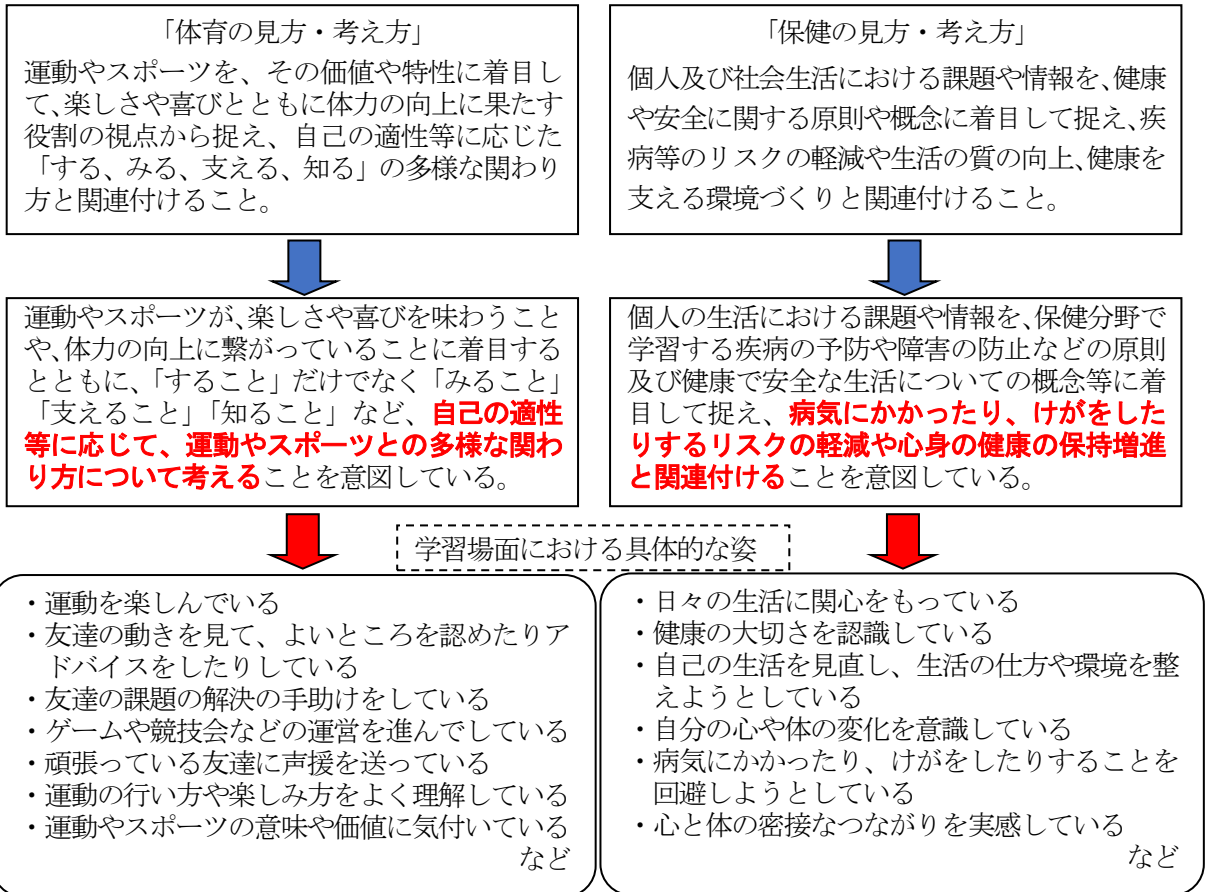
講師 帝京大学 教授 高田 彬成 先生



### (1) 体育科・保健体育科が目指す指導の在り方について

#### ①小学校体育科、中・高等学校保健体育科の目標

- 心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現（継続）するための資質・能力を育成することを目指す。



#### ②学習指導要領の改訂で何が変わるか？ ⇒ **授業が変わる！**

- これからの体育指導で重視したい指導観の例
  - (ア)知識と技能を関連付ける指導
    - 「わかる」と「できる」はつながっている
    - 「わかってできる」を目指す
    - 「うまくできないけどよくわかっている子」も大切に
  - (イ)体育ならではの表現力を重視した指導
    - 「できる子はわかっている」 → 表現力の育成
    - オノマトペ、動きで伝える、動きながら伝える
    - 表情、歓声や拍手、ボディコミュニケーション
  - (ウ)共生社会の実現につながる指導
    - 多様な「できる」を創り出す → 技能の「できる」だけではない
    - みんなが楽しい、みんなを楽しむ
    - 子どもたちそれぞれの楽しみ方を保証する

- ・これからの体育・保健体育授業で大切にしたいこと
  - (ア)「楽しむこと」を最優先とした授業づくり
    - 「楽しさ」の感じ方は、児童生徒によって異なる
    - 「できて楽しい」「わかって楽しい」は単純明快
    - 「うまくできなくても楽しい」「よくわからないけど楽しい」の追求
  - (イ)運動が苦手な・運動に意欲的でない児童生徒への配慮
    - 苦手でも安心して学習に参加し、楽しめる(伸びる)工夫
    - 学習への意欲が高まるような「新たな楽しみ方」の提案
  - (ウ)男女共習を原則とし、アダプテッド・インクルーシブの視点で
    - 技能や体力の差に応じた授業展開には、相応の工夫が必要
    - 授業研究の中心は「技能差・体力差を包含した指導の工夫」
    - ルールや場、用具等の工夫で、その差を埋める(縮める)

## (2) 授業改善の視点について

### ①主体的・対話的で深い学び

- ・「主体的・対話的で深い学び」は授業改善を推進するための視点であり、指導の目標ではない
- ・あくまでも指導の目標は「体育科・保健体育科で目指す資質・能力の育成」

### ②主体的な学びの視点からの授業改善の推進

- ・学習への興味や関心の喚起＝内発的な動機付けを促すことは主体的な学びの充実に欠かせない
- ・学習の見通しの提示＝「こんなことをするのだな」「やってみよう」などの思いや願いを高める
- ・課題と課題解決のための活動の提示＝課題の例と、その課題を解決するための活動を明示
  - わかりやすく段階的に提示し、児童生徒の思考・判断を促す
- ・学習の振り返り＝「何が楽しかったか」「何ができるようになり、何が課題となったか」
  - 自己の学びの振り返りを習慣化(学習カードやICTの活用・学びの軌跡の可視化)
- ・学びの成果の確認＝「〇〇ができるようになった・うまくなった・楽しくなった」などの成果
  - 「〇〇がうまくいかなかった」等も成果と捉えたい
  - 児童生徒の学びの成果を見逃さず褒めたり、意味付けたりすることが重要

### ③対話的な学びの視点からの授業改善の推進

- ・表現力の伸長＝児童生徒が気軽に声を掛け合ったり相談し合ったりできる雰囲気
  - 運動量や運動機会の十分な確保(運動の機会があればあるほど伝えたいことが増える)
  - 体育ならではの表現を大切に → オノマトペ、動きで伝える、動きながら伝える
- ・必然性のある対話＝対話的な学びは目的ではなく、目標を達成するための手段
- ・新たな気付きや動機付け＝他者との対話が手掛かりとなり、学習へのさらなる動機付けに繋がる
  - 見合いや教え合い、グループでの相談、励まし合いや褒め合いなど
  - 対話を重ねることで、さらに主体的な学びへと繋げたい

### ④深い学びの視点からの授業改善の推進

- ・試行錯誤の促し方＝いろいろな方法を試し自分なりの行い方を見付けていく楽しさに気付かせる
  - 「教えること」と「児童生徒に委ねること」を整理
- ・思考の深まり方＝育成を目指す資質・能力の三つの柱をバランスよく指導
  - 技能だけが「できる」ではなく、知識や思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等に関する様々な「わかる」「できる」を実現する過程で、思考が深まる
- ・見方・考え方の醸成＝「運動はうまくなければ楽しめない」などの偏見を抱くことのないよう留意

### (3) 指導と評価の一体化について

#### ①陥りやすい勘違い

- ・指導と評価を連動させる視点から「指導したことを評価する」という考え方を指すものではない

#### ②「指導と評価の一体化」とは

- ・指導と評価はそもそも切り離せず一体的であるということを表したもの
- ・指導すること＝児童生徒を評価しながら指導すること
- ・指導したこと全てを観点別評価規準に基づいて評価する必要はない  
→本時で技能の指導を重点的に行うが、その評価は次時以降に行うことも十分に考えられる

#### ③「指導と評価の一体化」を進めるために (むしろ、そうすべきである)

- ・適切な指導は、適切な評価のもとに成り立つ  
児童生徒の変容(成長)を見取る→「わかった」「できた」指導に一定の効果があったということ  
「わからない」「できない」指導の工夫が必要だということ  
児童生徒を評価することによって、指導計画の課題や修正点が明確化＝これぞPDCA
- ・児童生徒の思考・判断・表現を学習の中心に  
学習の中心は技能の習得ではない(体育＝技能教科は古い！)  
技能の習得は児童生徒にとって目標であり、課題設定の源  
→できるようになるために「何を？どうすれば？」が学習の中心  
(技能の習得は、学習の結果としてのパフォーマンス形成にすぎない)
- ・目標の実現状況を評価 ⇔ 評価することで指導の修正を図る **この往還が重要！**

### (4) 体育科・保健体育科における ICT の活用について

#### ①ICT は目的やねらいに応じて用いることが大前提

- ・「使用すること」を目的化しない
- ・タブレット等を使うことで指導効果が高まることに特化して用いる  
(使わなくてもできることに取って代わる必要はない)

#### ②運動に従事する時間や課題を解決するための時間が減少することは避ける

- ・技能の理解が深まる・自己の課題が明確化する・意欲が高まることで、運動に従事する機会や時間が増加したり技能の習得に繋がったりする＝効果的な活用

#### ③活用方法の精選における留意

- ・タブレットがあることで、友達の運動をその場でしっかりと観察しようとする意識は働きにくい
- ・タブレットがなければ、身振りなどの実演を交えて工夫しながら相手に伝える関わりが生まれる
- ・どんな場合でも「使わないより使ったほうがよい」と短絡的に考えず、有効性を確かめることに留意

#### ④情報の管理に努める

- ・蓄積された情報が児童生徒自身のものであれば問題はないが、友達の記録等が混在する場合には、たとえ学習目的であっても著作権や肖像権の侵害等につながるため、細心の注意が必要
- ・情報モラルの周知徹底に努めることが大切

#### ⑤運動領域における活用

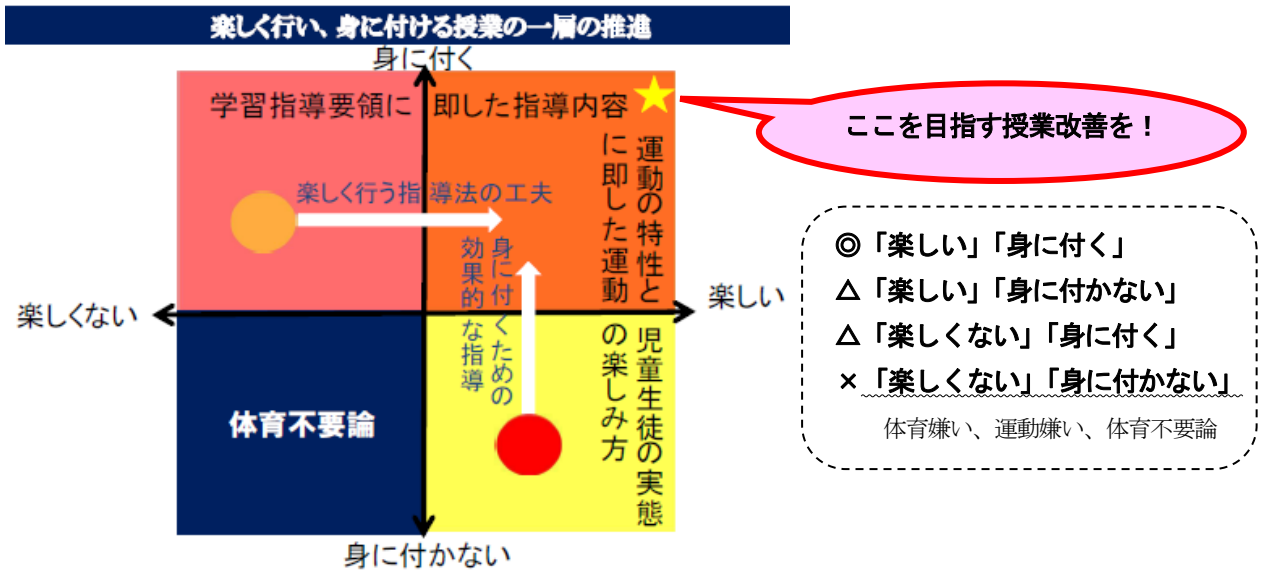
- ・動きを撮影し、再生することで自己や仲間の課題が明確化する
- ・目標とする動きを可視化することで、学習者の理解が深まる(スロー再生、繰り返し再生等)
- ・動きや課題の共有化を図ることができる

#### ⑥保健領域における活用

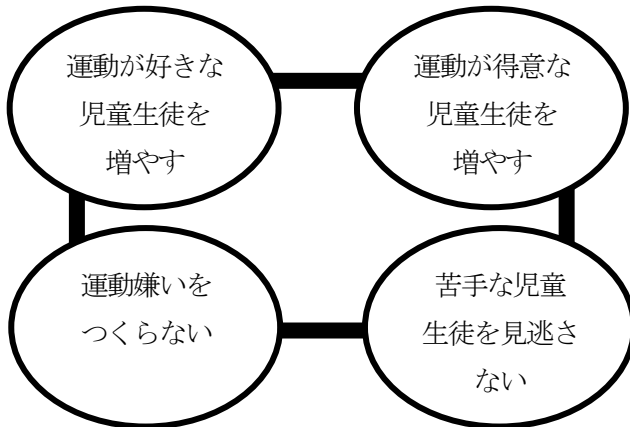
- ・「課題を見付ける」「調べる」「課題を整理する」「学習をまとめる」などに効果的

(5) まとめ

①目指すべき体育の授業



②授業を別れ道にしてはならない



体育・保健体育の授業は  
2輪ではなく4輪の指導を目指す！

③体育・保健体育が得意な人とは？

- (ア) 運動能力が高い (運動がよくできる) 人
- (イ) 運動・スポーツへの関心が高い (興味を持っている) 人
- (ウ) 準備や片付けなど、仲間のために率先して動く人
- (エ) 挨拶ができ、相手を尊重し敬意を払える人
- (オ) 約束を守り、ずる (卑怯なこと) をしない人
- (カ) 自他の安全を最優先し、命と暮らしを守る人
- (キ) 社会の一員として、和・輪・話を大切にする人 など

育成を目指す(ウ)～(キ)などの豊かな人間性をより重視したい